

完璧に伝えられる日なんてこない。だからこそ…

私たちはなぜ、「話そう」と思うのでしょうか。親と話す、友達と話す、恋人と話す、先生と話す、知らない人と話す…“話す”ということを経験していない人はいません。いきなり何もないのに「話そう」とは思いません。私たちが「話そう」と思うのは、実は「感情が動いてから」なんです。何らかの感情の動きがあって、それを「共有したい」とか、「相手に知ってもらいたい」とか、「危ないからやめとけ」とか、「これはきっとアイツのためになる」とか思うわけです。感情がなかったら、私たちは話さないんです。

しかし、感情の種類と言葉の種類とには、圧倒的な差があります。言葉は圧倒的に足りません。例えば私はよく「凄い」という言葉をよく使います。教え子が浪人してでも入りたい大学があるのだと聞くと「凄い!」って言いますし、またある教え子が、高校生活で一番の青春の時間を過ごしたと聞けば「凄い!」と言います。またある時は、大好きなコナンをモチーフにした誕生日プレゼントをクラスの生徒からもらえば、「凄い!」って言います。どれも、「す・ご・い」というたった3文字の言葉なのですが、そこに込められている感情は、どれも全く異なります。そうです。語彙力が足りないんです(笑)

そのくらい、私たちの「感情の種類」は圧倒的に多いです。私たちは、数えきれないほど、多くの感情を味わって生きています。その感情を、なんとか「共有したい」「分かっしてほしい」と思って、「言葉」を生み出し、伝えようとしてきました

私たちは、いろんな言葉を生み出してきました。「しんゆう」という4文字に「親友」だけではなく「心友」「信友」「真友」「新友」「神友」「深友」などというふうに、どんどん新しい言葉を生み出してきたんです。なぜでしょうか。それは、自分の感情に少しでも近い言葉を作ること、その感情を表現して、誰かに伝えたいからです。それくらい、感情の種類は圧倒的に言葉の種類を超えています。それでも、足りません。

だから、「なんとかして表現する努力」を辞めないでほしいです。もちろん、感情にぴったり当てはまる言葉はなかなか見つかりません。自分の感情全てを完璧に相手に伝えられることなんて、おそろくないです。だからこそ、自分の思いが相手に伝わった瞬間、「分かってくれた!!良かった!!」って幸せな気持ちになれるんです。では、「分かち合いたい」「分かっしてほしい」と思うときに、私たちがとれる手段は何か? 一つだけです。「話す」ことなんです。

話すことを諦めないでください。ただ一つ、大切なことを付け加えるなら、「完璧にならないということ」を許可しながらです。だから、「どうせ私なんかには伝えられないんだ」とは言わないでほしいです。伝えられることなんてきつくないので、うまく相手に伝わらなくても、「そういうものなのだ」と言葉足らずな自分を許しながら「なんとかして共有したい」という思いを、なかったことにせず、話すことを恐れず、挑戦し続けてみませんか。私も、伝えることを諦めず生きていきます。

20代で生まれた差は、一生埋まらない

うまく伝わらないかもしれないという思いをもちながらも、恐れず、この話を紹介したいと思います。少々言葉がキツク感じられるかもしれませんが、今伝えないと意味がないと信じて、伝えます。

最後に、とても大切なことを伝えておく。

耳の痛い話かもしれない。ただ、耳の痛い話は大体真実だ。いいか?

20代で生まれた差は、一生埋まらない。

30代は、20代で勝った者同士で手を組み、20代で負けた者同士で手を組むことになる。

40代は、30代で勝った者同士で手を組み、30代で負けた者同士で手を組むことになる。

当然、「与えられるチャンス」「使える人脈」、そして「使えるお金」には差が生まれる一方だ。

「格差が生まれる理由」を簡単に説明してくれる有名なゲームがある。ルールはこんな感じ。

・参加者のスタート時の所持金は1000円。

・コインの表と裏でお金を賭ける。

・賭けられるお金は自分の所持金の20パーセント。

・勝てば、賭けた分を相手からブン取る。

非常にシンプルなゲームだ。僕とキミでこのゲームをしてみよう。

互いに賭けられる金額は、「1000円の20パーセント」だから「200円」。

そこで僕が勝てば、僕の所持金は「1200円」で、キミの所持金は「800円」になる。

次にキミが僕(あるいは1回戦で勝った人)にリベンジを申し込んだとする。

キミが賭けられるお金は「800円の20パーセント」だから「160円」で、

僕が賭けられるお金は「1200円の20パーセント」だから「240円」。そこで今度はキミが勝ったとする。

そうすると、キミの所持金は960円で、僕の所持金は1040円になる。どうだ?

一勝一敗(勝率5割)なのに、格差が生まれている。

このゲームを何度も繰り返すと、勝率5割なのに、徐々に格差が広がっていく。

これは「お金」だけの話じゃない。「人脈」も「チャンス」もそうだ。

世界は「最初に勝った人間」を覇権し、「最初から持っている人間」を覇権する。

学校じゃ教えてくれないけど、これが世界の理だ。

後から取り返せると思うな。1日でも早く学べ。

人生の努力量を「100」とするなら、その「100」は均等に振り分けるのではなく、

人生の前半戦に集中投下し、初戦をとれ。近くに子どもがいるなら、このことを教えてあげて欲しい。

『夢と金』(西野亮廣/幻冬舎)より